

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370215

研究課題名(和文) 東アジアにおける徐福東渡伝承の形成と受容に関する研究

研究課題名(英文) Study on formation and reception of Johuku Legend in the East Asia

研究代表者

金 任仲 (KIM, IMJUNG)

明治大学・研究・知財戦略機構・研究推進員

研究者番号：30599577

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「徐福東渡伝承」をめぐって、東アジア各地域に残る徐福伝承の成立と伝播・受容を中心に考察した。主な研究成果としては、徐福が渡来したという熊野の新宮・濟州島などについて、日本と韓国の関連資料を比較研究し、中国の泰山・岱廟・靈巖寺などのフィールド調査を行なった。また徐福が韓国・濟州島に上陸した記念として正房瀑布に「徐市過此」という句を刻んだ徐福刻字の由来をめぐって考察した。さらに、山梨県富士吉田市には『宮下古文書』が遺っており、徐福と関連する明美湖の徐福像・徐福雨乞地蔵祠などを調査した。これらの研究成果は、国内外の学会・研究会に参加して発表し、学術論文を日本語と韓国語で執筆して公表した。

研究成果の概要(英文)：This study was considered focusing on formation, spread and acceptance of the Jofuku legend in East Asia. And, about Shingu of Kumano in conjunction with Johuku, I performed a comparative study mainly on Japan and a Korean document. I performed a field investigation into Chinese Taizann, Taibyou, Reiganji. In addition, I considered it over an origin of Johuku kokuji which engraved a phrase called Johuku kasi into a Junban waterfall as the memory that Johuku struck Korea, Jeju Island. Furthermore, Miyashita ancient documents were left in Fujiyoshida-shi, Yamanashi, but investigated Johukuzou, Johuku Hokora of the Lake Akemi in conjunction with Johuku. The result of the study participated in the country and an overseas meeting for a study and informed it and wrote an article by Japanese and Korean and told it about it.

研究分野：日本文学

キーワード：徐福 秦始皇帝 熊野 濟州島 新宮 南海島

### 1. 研究開始当初の背景

(1)『史記』に見える徐福は、紀元前3世紀頃、中国の覇者秦の始皇帝の命により不老不死の仙薬を求め、男女数千人・五穀の種・百工(技術者)を率いて東方に渡ったと伝える。我々が最も信頼できる徐福の史料は秦の同時代のものではなく、百年後の前漢時代の司馬遷が記述した『史記』である。従来の観点では、編纂時に誤りが生じた可能性は排除できないが、複数の章・節に同じ内容の虚構の記事が記されているのは、極めてわずかであり、史実しか書いていないとされた。

(2)しかし本研究では、司馬遷時代に多くの始皇帝伝説が東方六国で生まれていたことから、『史記』・『三国志』・『漢書』の他、多くの関連資料の記事を徹底して分析し、徐福東渡伝承が東アジア全体に広がっていたことを明らかにする。さらに伝説と事実とを明確に区別し、現在に至る徐福伝承の背景について比較研究を行い、文献学的な立場から、どこまで伝説を事実として裏付けることにより東アジア各地域に残る徐福伝承が明らかになると思う。

### 2. 研究の目的

(1)東アジアにおいて、文化交流を人とモノの移動の面から見ると、秦代の始皇帝の命を受け、不老不死の仙薬を求め、東方に渡ったと伝える徐福という人物が注目される。現在日本には、中国大陸から出帆し、日本に渡来したという徐福伝承地が20ヶ所以上存在する。そこで本研究は、徐福東渡伝承をめぐって、『史記』・『三国志』・『神皇正統記』・『海東諸国記』など、日中韓の関連文献資料の比較分析を通して、後世の徐福伝承が、どのように形成し受容され、日本渡来の伝説に発展していったか、その経緯と分布状況を調査し、東アジアにおける文化交流と伝播及び影響関係を考察し解明することを研究目的とする。

### 3. 研究の方法

(1)本研究は、「徐福東渡伝承」をめぐって、『史記』をはじめ、『義楚六帖』・『神皇正統記』・『国史通考』・古文書・縁起書・地誌などを多様に援用しながら、韓国の『瀛州誌』・『海東諸国記』・『太白逸史』を中心に比較研究を行い、東アジアにおける徐福伝承の成立と伝播・受容の形態を明らかにする。

(2)このために、史書・縁起書・古文書・徐福関連資料などから徐福伝承に関連する記事を調査・収集すると共に、韓国の『海東諸国記』・『看羊録』・『太白逸史』、その他に徐福に関わる関連資料・金石文などについてのフィールド調査を併せて実施し、徐福伝説を究明していく。さらに、東アジア各地域に残る徐福伝承の分布状況について、諸文献の該当箇所を集めたデータベースとして構

築する。研究成果を発表するために、国内外の学会・研究会に積極的に参加して発表し、学術論文を日本語と韓国語で執筆して学術雑誌に投稿する。

### 4. 研究成果

(1)徐福東渡伝承を検討するために、日本側の資料『神皇正統記』をはじめ、古文書・縁起書・地誌と、中国側の資料『史記』・『三国志』・『義楚六帖』と、韓国側の資料『海東諸国記』・『太白逸史』などに見える徐福伝説の記述を調査・渉猟し、該当箇所のデータベース化を構築した。

(2)中国山東大学において、「東アジアの文化交流 徐福日本渡来伝承をめぐって」というテーマで講演を行なった(2014年7月17日)。また、徐福と関わりがある中国の泰山・岱廟・靈巖寺などを調査した。泰山は秦始皇帝の時代から、「封禪の儀式」が行われた聖なる山で、岱廟は中国古代帝王が封禪の儀式を行なう際に居住した場所である(2014年7月14日~7月20日)。

(3)韓国の徐福伝承地として、南海島良阿里の岩に刻み込まれた「徐市題名刻字」という文字が残っている。『太白逸史』には、紀伊国新宮にも同様の徐市の題名刻字が記されているが、熊野新宮に徐福の題名刻字は伝わらない。現在、韓国の南海郡錦山の摩崖石に、「徐市起礼日出」の六字の籀文刻字(古代文字)が残っている。また濟州島西帰浦・正房瀑布の岸壁に徐福が出発する前に、この地上陸した記念として、徐市(福)が此の処を通過したという意味で、「徐市過此」と刻み込んだ文字が残っていると伝えられている。実際、西帰浦の正房瀑布の岸壁に「徐市過此」の刻字があったかどうか定かではないが、それは、塚原熹の拓本によって確認することができる(2015年8月25日~8月29日)。

(4)徐福の熊野渡来は、『羅山文集』『国史通考』『宮下文書』の中に記されているが、その他に『熊野権現縁起』など熊野関連資料にも蓬萊島・徐福祠の記述がある。新宮市熊野川近く、阿須賀神社の境内には、「徐福宮」と蓬萊山と称する霊山があり、熊野・新宮など現地調査と資料収集を行い、韓国側の資料に伝わる徐福伝との関連を比較分析した。佐賀市の金立神社はご神体が巨石となっているが、韓国の南海島にも巨石信仰が伝わっているため、神仙思想の影響に注目し、徐福資料館・金立神社など現地調査と資料収集を通して、徐福と関連づけて考察した。

(5)濟州島西帰浦の正房瀑布の岸壁には、徐福がこの地を出発する前に、上陸した記念として「徐市過此」を刻んだ文字が残っていると伝えられ、それに関する刻字の拓本が西帰浦市・徐福記念館に今も保存されており、実

際確認することができる。『心齋集』にも、徐市の刻字と関わる記事があり、済州島の徐福伝説と拓本の内容との関連性について考察した。さらに、現在南海島の摩崖石に「徐市起礼日出」の六字の籀文刻字（古代文字）が残っているが、これは徐福集団の南海島渡来を知り得る貴重な遺跡で、『太白逸史』にもその記事があり、徐福伝説と刻字の由来を検証した。徐福の出航地について、『史記』には記されていないが、現在の山東省から浙江省にかけて諸説があり、徐福集団が朝鮮半島を経由して日本に渡来した経緯について異論はなく、今後江蘇省・徐福村、山東省・琅琊台など実地調査と資料収集を通して、文献学的な立場から考証した。

(6)東方の三神山とは、蓬莱・方丈・瀛州のことであるが、『登瀛字説』には尾張の熱田と紀伊の熊野と駿河の富士を三神山と比定されており、韓国側の資料『五山説林』『海東諸国記』には、方丈は智異山、瀛州は漢拏山、蓬莱は金剛山にそれぞれ当てているため、愛知県・熱田神宮など現地調査を行い、その相違点と三神山の由来について解明した。また、三神山と関連付けて、韓国慶尚南道咸陽・徳裕山にある三峰山公園を踏査した（2016年8月23日～27日）。ここでは毎年8月第1週目に「咸陽山参祝祭」が開かれるという。「山参」は、非常に貴重なものでその効能は高麗人参よりも遥かに優れており、長寿の薬草として大切に扱われている。咸陽の徳裕山は地理的に東方の三神山の一つである方丈の智異山と連なっており、薬草が育てやすい最適の場所であるという。地元の朴一春氏の話によると、徐福は秦の始皇帝は不老草である「山参」を求めて、この地域にきたという伝説があるが定かではない。

(7)百済王氏は、7世紀半ばに「質」として日本に派遣された百済最後の王である義慈王の息子善光（禅光とも）を始祖とする。660年の百済滅亡後、鬼室福信・余自信らは余豊を百済復興のために王として迎え、日本が救援し介入した、663年の白村江の戦いで倭国・百済遺民連合軍は大敗し、余豊は高句麗に逃れ、余自信らは日本に亡命した。善光はついに帰国できなくなり、そのまま日本に留まった。朝廷はこれを優遇し、持統朝に「百済王」の姓を賜ったが、天皇の後裔以外に日本で王を称するのはこの百済王氏がはじまりであり、その特別な扱いは注目に値すると思われる。百済王氏の本拠地は当初難波にあったが、その後河内交野郡（現在枚方市）に本拠を移し、この地に建立した百済寺はその氏寺である。とくに、東大寺の大仏建立の際、天平勝宝元年（749）に陸奥国小田郡産の黄金を献上した陸奥守百済王敬福は、善光の曾孫にあたる。本稿では、善光寺草創の由来をめぐって、信濃国の渡来人を検討した上で、本田善光と若麻績東人との関わりについて

考察してみた。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 16 件）

金任仲、元暁大師と明恵上人 高山寺関連資料を中心に、淵民学志 22 輯、査読有、2014、pp.87～132

金任仲、明恵における光明真言土砂加持の信仰、Journal of East Asian Studies 5 号、査読有、2014、pp.145～172

金任仲、百済王善光長野善光寺、淵民学志 24 輯、査読有、2015、pp.207～229

金任仲、徐福渡来伝承 南海島を中心に、東アジア文化研究所紀要 7 号、査読有、2016、pp.92～102

金任仲、新羅僧審祥の来日について、東アジア文化研究所紀要 7 号、査読有、2016、pp.75～92

金任仲、絵解きと伝承そして文学（共著）、林雅彦教授古稀記念論文集、方丈堂出版、査読有、2016、pp.309～338

袴田光康、六条院の春 胡蝶巻の蓬莱と浄土、査読無、国語と国文学 91・11、2014、pp.64～76

袴田光康、入唐求法巡礼行記に描かれた在唐新羅人、洌上古典研究 43 号、査読有、2015、pp.85～113

袴田光康、富士山とペンキ絵、文芸研究 125 冊、査読有、2015、pp.135～151

袴田光康、朝鮮王朝実録成宗条の琉球漂流に関する考察、淵民学志 24 号、査読有、2015、pp.9～37

袴田光康、須磨の祈りと天神信仰、物語研究 16 号、査読無、2016、pp.182～192

袴田光康、徐福渡来伝承をめぐる断章 寛輔のこと、翻訳と文化・文化の翻訳 12 号、査読無、2017、pp.71～78

堂野前彰子、龍と王権 三国遺事説話から、洌上古典研究 42 号、査読有、2014、pp.419～442

堂野前彰子、日向神話の韓国 三国遺事に描かれた倭と比較して、洌上古典研究 47 号、査読有、2015、pp.47～74

堂野前彰子、遠野物語に描かれた山の世界、遠野物語を読む 3 巻、査読有、2016、pp.23～55

堂野前彰子、恋に生きる 小泉八雲の見た日本、文芸研究 129 冊、査読無、2016、pp.351～362

〔学会発表〕（計 8 件）

金任仲、東アジア文化交流 徐福日本渡来伝承をめぐって、山東大学韓国学院、2014 年、7 月 14 日、中国山東大学

金任仲、百済王善光と長野善光寺、第 6 回 明治大学・高麗大学国際学術大会、2015 年 10 月 24 日、明治大学グローバルフロント

金任仲、日本華嚴宗の祖師元曉大師、光州  
仏教信者会、2015年8月29日、韓国元曉  
寺

金任仲、日本における元曉大師、光州仏教  
信者会、2016年6月18日、韓国元曉寺

袴田光康、円仁と在唐新羅人の社会 山東  
省赤山浦を中心に、山東大学韓国学院威  
海校創立三十周年記念国際学術大会、2014  
年10月18日、中国山東大学韓国学院  
袴田光康、天神信仰と帝釈天信仰 須磨流  
離の背景、物語研究会シンポジウム、  
2015年3月21日、韓国国立外交院

堂野前彰子、古代日本文学に描かれた若狭  
琵琶湖水系と交易、平成26年度美浜  
町歴史フォーラム、2014年10月4日、美  
浜町生涯学習センター

堂野前彰子、龍と王権 三国遺事の説話か  
ら、山東大学韓国学院威海校創立三十周  
年記念国際学術大会、2014年10月18日、  
中国山東大学韓国学院

〔図書〕(計 3件)

金任仲、華嚴縁起研究、宝庫社、2015年、1  
~337

金任仲、絵解きと伝承そして文学(共著)、  
林雅彦教授古稀記念論文集、方丈堂出版、  
2016年、309~338

堂野前彰子、古代日本神話と水上交流、弥生  
書店、2016年、1~460

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

金任仲(KIM, Imjung)  
明治大学・研究知財戦略機構・研究員  
研究者番号：30599577

### (2) 研究分担者

袴田光康(HKAMADA, Mitsuyasu)  
静岡大学・人文社会科学部・教授  
研究者番号：90552729

### (3) 研究分担者

堂野前彰子(DONOMAE, Akiko)  
明治大学・経営学部・講師  
研究者番号：5058770

### (4) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (5) 研究協力者

( )